



まち・ひと・しごと

#013 徳満寺 太刀祭



二体の巨大な竜を乗せた台車を、大人が10人がかりで押し歩く姿に、道行く人々が思わず足を止めていました。

「よそもの目線」で利根町の魅力をみつけた

この太刀祭は、長い間、毎年行われているお祭りとのことですが、布川の徳満寺の信者さんたちによるお祭りのため、町民の方でもご存じない方が多いと聞きました。

毎年、七月の第一日曜日に行われているお祭りですので、ぜひ一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

今回、実際に、この太刀祭へ取材を兼ねて参加させていただき、地域で古くから伝わるお祭りを、地元の方々が大切に守り、継承していることに感動しました。

きつとほかの地域にも、このような地域のお祭りやイベントが、まだまだたくさんあるのではないのでしょうか？

そんな地域の情報を、私たち利根町地域おこし協力隊は、利根町の魅力として、「よそもの目線」から再発見、再発掘していきたいと思っていますので、もしどこかで見かけた時には気軽に声をかけてください。よろしくお願ひします！

徳満寺を出発した一行は、旧布川の上柳宿・下柳宿・谷原・東・馬場・中宿・浜宿の集会所を順々に巡り、般若心経を唱えて地域の厄除と五穀豊穡を祈願すると、地区の方々が、冷たい飲み物や、おにぎり、スイカなどを振る舞い、猛暑の中を練り歩く一行の労をねぎらいます。そして、再びほら貝が鳴り響くと次の地区へ移動の合図。お経を唱えた後、太刀を乗せた台車は、次の地区を目指してゆっくりと動き出します。

太刀が、七地区すべての集会所を巡って祈禱を終え、徳満寺へ戻ってきたのは午後四時過ぎ。

住職のあいさつで今年の太刀祭が幕を閉じたころには、すっかり陽も西に傾き、あんなに暑かった境内には日陰ができて涼しくなっていました。

各地区の祈禱を終え、無事に徳満寺へ帰ってきた太刀は、再びお堂の中へ納められ、来年まで、その場所から静かに布川の町を見守ることになります。



お囃子を乗せた車に続き、太刀と一行が旧布川の各地区地域を巡り祈禱を行います。

厄除と五穀豊穡の願いが込められた巨大な太刀が町内を巡る奇祭

このお祭りは、今から約八十年前、天保年間のころに徳満寺周辺で疫病が流行し、多くの死者が出たとき、同寺の僧侶が、大きな松の木を切り出して作った巨大な太刀を担いで町内を巡ると、不思議なことに疫病の流行が治まった。という出来事が由来とされているそうです。しかし、いつしかこの祭りは、行われなくなり、昭和二十四年ころ、本堂改修の際、屋根裏に納められていた巨大な太刀が偶然発見されたのをきっかけに復活しました。

現在は、毎年七月の第一日曜日に、竜の形をした注連縄が飾り付けられた太刀と小刀を乗せた台車を押し、旧布川の各地区を巡り、厄除と五穀豊穡を祈願するお祭りとなっています。



1. 祭りは、まず住職や関係者ら全員でお経を唱えるところから始まる。当日は、雲ひとつない晴天で、参加者を強い日差しが照りつけた。  
2. 独特な衣装を身にまとった僧兵役の渡辺正明さん(左)と伊藤恒夫さん(右)、猛暑の中、この衣装は見ているだけでも暑そうでした。

猛暑の中、地域を練り歩き、無病息災を祈る



1. 本番一週間前には、信徒の布川大師会と海珠会のみなさんが注連縄作りを行います。2. 注連縄の竜は大小二つの太刀に飾り付けられる。大きく開かれた口と長く伸びた二本のひげ、真っ赤な目玉は迫力満点。一見怖く見えるがどこか愛嬌があります。

太刀祭当日は、朝から厳しい暑さでしたが、境内には、布川大師会と海珠会、そしてお囃子を奏でる龍ヶ崎市鼓舞太鼓の皆さんなど、関係者に加え、毎年参加しているという近所の方々や子供たちのほか、利根町の観光パンフレットでこの祭りを知り、わざわざ東京から写真を撮りに来たという祭り好きの写真愛好家まで、たくさんの人々が集まり、賑わいを見せていました。

そして、午前十一時「ポオ、ポオ」というほら貝の音が祭りが始まる合図。まずは、住職と参加者一同が、声を揃えてお経を唱えてから、いよいよ太刀が練り歩きに出発します。



利根町地域おこし協力隊  
諸恵美子 隊員

幼少期を新宿で過ごし、20代で沖縄県へ移住。さまざまな職種の仕事を体験してきたことで「人と接する楽しさ」を知る。明るく、人見知りをしない性格で、知らない人にもすぐ声をかけられるのが特技。今年4月、利根町地域おこし協力隊として就任後は、この特技を最大限に発揮して、町内各所で活動中。(東京都新宿区出身)

### 取材Q&A

昔は、この巨大な太刀を人力で担いで町内を巡っていたそうですが、担ぎ手の高齢化や人手不足で、今は太刀を台車に乗せ、引きながら巡っています。高齢化と人手不足は、伝統の継承に深刻な課題を投げかけているんですね。



徳満寺 <とくまんじ>

元龜2年(1571年)に祐誠上人が中興した寺で、当初は今の門前に建てられていましたが、この地を治めていた豊島氏が滅ぶと城跡(現在の場所)に寺を移しました。境内にある地藏堂には、地藏菩薩が安置され「子育て地藏」と呼ばれ、親しまれています。少年期の柳田國男に大きな影響を与えたとされている「間引き絵馬」は、本堂の廊下に掲げられています。

※見学を希望される方は、直接お問い合わせください。

利根町布川 3004 ☎ 68-2442  
☑無料 ☹なし ☑あり